令和６年度 市民と市長の対話集会

**市長と語ろう*！*ほっとミーティング**

**開催結果報告書**

**１**　開催日時　令和６年（２０２４年）１１月７日（木）

午後２時から３時３０分まで

**２**　開催場所　市役所４１０会議室

**３**　参加者 　環境の分野で活動している団体関係者９人

**４**　テーマ　 デコ活～脱炭素につながる新しい豊かな

　　　　　　 暮らしを創る国民運動～の推進



**５　市長あいさつ**

　皆様こんにちは、市長の落合でございます。このほっとミーティングは

私が市長に就任以来、市民の皆様の声をお聞きして、市政に生かしていくために続けています。

　各分野でご活躍いただいている皆様のご意見を伺いながら、平塚市が貢献できること、実施しなければいけないことを施策へ反映させています。

　平塚市では一昨年に環境基本計画の中間見直しを行い、更なる脱炭素社会の実現に向けた取組を進めています。環境省が推進する「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動」である、いわゆるデコ活に賛同し、2050年のゼロカーボンシティ実現を目指してデコ活宣言も行いました。脱炭素政策として、市が管理する施設に対しての再生可能エネルギーや省エネ設備の導入、一般利用者用の電気自動車の充電器の設置などに取り組んでいます。脱炭素の実現には、市民生活にも大幅な二酸化炭素の削減が求められています。行政、企業、そして各種団体が連携して取組を進め、ライフスタイルの転換を促していくことで、大きな運動になると思います。皆様の様々なご苦労を伺わせていただきながら、我々も、しっかりとその認識を深めていきたいと思います。今日はよろしくお願いします。

**６　主なミーティング内容**

【司　会】

ＮＰＯ法人湘南ＮＰＯサポートセンターの理事長をしております坂田と申します。よろしくお願いします。

今日は脱炭素化ということで、平塚市が2050年までに二酸化炭素の排出量ゼロを目指していることから、市内で様々な取組を進めていらっしゃる企業や団体の皆様にお集まりいただきました。脱炭素を実現するためには、市民の暮らしやライフスタイルの分野でも大幅なＣＯ２の削減が求められていることから、行政や企業団体等が連携して、市民の皆様の新しい暮らしを後押しすることが必要ではないかと考えています。また、脱炭素という言葉は知っていても、具体的な行動がわからないというケースが多いのではないかと思います。今日は環境の分野で活動をされている皆様が日頃から感じていることをお話していただきたいと思っています。

今日の進め方になりますが、初めに参加者の皆様に自己紹介をしていただき、その後、個別の活動について伺いたいと思います。その後、意見交換を行い、適宜市長にコメントをいただきたいと考えていますので、よろしくお願いします。

【参加者】

平塚地区環境対策協議会の会長をしています。日本クロージャー株式会社に勤務しています。

【参加者】

同じく平塚地区環境対策協議会で事務局をしています。日本クロージャー株式会社平塚工場に勤務しています。

【参加者】

広川から参りました。平塚市の地区美化推進委員長連絡協議会の副会長をさせていただいています。広川自治会の会長もしています。

【参加者】

平塚市地区美化推進委員長連絡協議会の会長を仰せつかっております。豊田地区平等寺自治会の会長もしています。

【参加者】

真土から参りました。ひらつか環境ファンクラブの副会長で、子ども等への環境教室「地球っ子ひろば」に携わっています。

【参加者】

土屋から来ました。ひらつか環境ファンクラブの会長をしています。

【参加者】

崇善地区から参りました。平塚市ごみ減量化推進委員会の副会長をさせていただいています。

【参加者】

旭北地区から選出されています。平塚市ごみ減量化推進委員会の副会長をしています。

【参加者】

旭南地区から参りました。ごみ減量化推進委員会の会長をしています。前身は昭和63年に発足した平塚市ごみ減量化婦人の会です。

【司　会】

皆様どうもありがとうございました。今日は環境の分野で活動されている四つの団体の皆様にお集まりいただいています。それでは、それぞれの活動状況をお話いただき、市長に聞いていただきたいと思います。

【参加者】

平塚地区環境対策協議会は平塚地区の環境保全活動に取り組むことを主な目的とした団体です。ご賛同いただいた市内の会社で組織されており、2004年に発足し今期で21年目になります。現在は47社に加盟いただいています。

具体的な活動は、まず１つ目に、環境対策に取り組む県内外の企業を訪問し、その活動内容を参考にさせていただいています。

２つ目は、相模川の状況調査及び清掃活動を行っています。また、環境保全に関する啓発活動として植栽活動を行っています。

３つ目は、環境関連法規の勉強会を実施しています。

取組としては、このような活動を主体としています。

【参加者】

当協議会の活動について、ただ今説明がありました三つのイベントについて具体的なお話をさせていただきます。

１点目にモデル施設見学・研修会等がございます。会員企業の環境活動の視野を広げるために、視察等の施設見学を行っています。今年度は、10月11日に静岡にある某ＯＡ機器メーカーの環境事業開発センターを視察しました。こちらでは脱炭素社会、循環型社会を実現するための課題や環境に配慮された製品の積極的な導入など、持続可能な社会の実現に向けた多彩な取組を学ばせていただきました。ＯＡ機器メーカーですので、回収したＯＡ機器をリユース、リサイクルする仕組みを拝見しました。エコ活動として、従業員の方にエコ意識させるような設備があり、階段を使ったときとエレベーターを使ったときの消費電力がどのくらいなのか、あるいはＣＯ２がどれだけ削減されるかが見える形になっていて、非常に可視化の工夫ができている施設でした。

２点目の相模川の清掃と植栽活動は、昨日実施しました。参加者は八幡小学校の３年生が74名、会員企業の方が85名、ボランティアの馬入花畑の会の方が13名、平塚市役所の方が５名です。合計177名のご協力をいただき、チューリップの球根を植えたり、花畑周辺の清掃を行ったりしたところでございます。また、参加した小学生に向けて、今回なぜチューリップを植えるのか、ごみを拾わないといけないのかについて、紙芝居を使って理解を深めていただく活動を行いました。

（当日の写真を参加者に回覧）

３点目が環境保全講習会です。来年の２月に「神奈川県の生活環境の保全等に関する条例」の勉強会を平塚市役所のご協力をいただいて実施する予定です。

【司　会】

静岡県の企業への訪問のお話で、階段の使用とエスカレーター、エレベーターの使用の違いの見える化は、とてもわかりやすくてよいと思ったのですが、それは掲示板か何か用意されているのですか。

【参加者】

エスカレーターやエレベーターに１回乗ったら何キロワット、２回乗ったら何キロワットみたいな形で階段の縁に表示されています。

【司　会】

それはとてもわかりやすいですね。今写真を回覧していますので、是非ご覧いただき、後ほどの情報交換に生かしていきたいと思います。ありがとうございます。それでは続きまして、地区美化推進委員長連絡協議会の取組についてご報告いただければと思います。

【参加者】

私は、この４月から会長になったので、まだ１年目になります。２回ほど連絡協議会に出させていただいた中で、話題になっているのは戸別収集のことです。私の自治会では10月から戸別収集になったので、そちらの方にフォーカスしてしまっています。なかなか脱炭素というところまで視野が広がっていないので、今回ここに参加させていただきながら、脱炭素についてのお話ができないのが申し訳ない限りです。まだ脱炭素という大きいテーマではなく、カラス被害の防止について、自治会の方々にアナウンスするところで躊躇してしまっています。

デコ活については広報等でもいろいろアナウンスされていると思いますが、デコ活とは何だろう、初めて聞いたというのが私の第一印象です。

デコ活について調べたところ、最初の市長挨拶にありましたように地球規模の脱炭素ということで、ごみに関する取組はどこまでできるのか、私なりに考えているところです。

例えば、他の自治会がどのような形で資源ごみの場所をアナウンスしているのかを気にしたりしています。５、６年前に松原地区で、資源再生ごみの日にちや曜日などが看板にわかりやすく書いてありました。そこで私も自分の自治会で業者さんに頼んで、同じような資源ごみの看板を立てました。自治会でもごみについて困ることが多いため、いろいろ工夫しています。

改めて他の自治会の良い部分を取り入れて活用したいと思っているところです。

【司　会】

やはり市民一人一人の取組が最終的には脱炭素につながるので、一人一人がどこからできるのかというところが重要だと思いながら、今お話を伺っていました。今のご意見は後ほどの意見交換につなげていきたいと思います。それではひらつか環境ファンクラブの活動を紹介していただければと思います。

【参加者】

　ひらつか環境ファンクラブは、環境に関する専門的な知識を持った人、活動を実践している人、これから知識や技術を学んだり、体験したい人たちと一緒に、環境活動を進めたり、情報交換等をしている会です。

個人や団体で100人ほど所属しています。運営は会員を主体とする運営委員会で行っており、会費は無料です。主な活動として、緑のカーテンづくり講習会を毎年開催しています。緑のカーテンを活用して地球温暖化防止の活動を始めた頃はどこでも開催していましたが、だんだん熱が冷めてきています。以前は緑化まつりで苗を配れば皆受け取っていましたが、今は講習会に参加した方に苗をあげて、緑のカーテンコンテストに応募してくださいとアピールしています。今年は昨年に比べて応募者が増えました。

また、環境市民講座という市民に環境についての情報を発信する講座を開いています。今年は東京ガスさんに講師をしていただき、環境を意識して省エネ家電を使うことや、エネルギーを上手に使うこと、料理のときにくずを出さないように、へただけ残してあとは全部食べるなど、細かいところまで説明していただきました。他にも一般会員の方に太陽光発電のメリット、デメリットをお話いただきました。メリットは、発電すると売電した分だけお金が振り込まれることで、デメリットは、壊れたときの修理費用や廃棄費用です。

【参加者】

今回この会議のご案内をいただいて、私はいつから環境に関する活動を始めたのか振り返ってみました。そうすると、25年ほど前に平塚市が募集した環境論文に応募したのが縁で、それ以来ずっと環境に携わっています。平塚市の環境基本条例の策定委員としても参加させていただき、様々なことを学びました。自分は環境について何も知らないと思い、県の環境科学センターが主催する環境学習リーダー講習会で２ヶ月間学習を続けて、そこで学んだ仲間と一緒に「地球っ子ひろば」を立ち上げました。子どもたちに環境について伝えるということで始めて、現在まで続いています。

最初は毎月１回の定例教室を開きまして、内容を子どもたちと一緒に考えていました。基本は定例教室ですが、その後、茅ヶ崎市や大磯町など近隣の市町や様々なところからも依頼が入るようになりました。毎年市内の小学校からも依頼をいただき、学校に行って教室を開催しています。今年度は、平塚市主催のエコキャンドルづくりを12月22日に中央公民館で行います。小学生と保護者が対象で、エコキャンドルを作って、エネルギーや脱炭素に向けてのお話をしていきたいと思っています。

近年、マイクロプラスチックの問題がとても重要になってきています。鎌倉の海岸で打ち上げられた鯨の赤ちゃんのお腹の中からプラスチックごみがたくさん出てきて、その中に有害な化学物質が含まれていたことがありました。今度学習会に呼ばれているので、プラスチック問題についても参加者とともに考える予定です。

環境問題は本当に大変なことで、目に見えないところで少しずつ進んでいます。健康や命に関わる大きな問題を抱えていますので子どもともこの問題を共有し、皆さんとともにできることは取り組みながら、私たちも、もう少し頑張ろうという気持ちでいます。

【司　会】

大変重要なお話をいただき、ありがとうございます。目に見えない中でいろいろな問題が進んでいて、小さなお子さんの体調に関係することにも及びかねないというところは、私たちも活動の中で日々実感しているところです。それでは続きまして、平塚市ごみ減量化推進委員会の皆様から活動のご報告をお願いします。

【参加者】

私たちは、市内の各自治会から推薦された225名の委員さんで構成されています。人口25万の市で225名というのは、とても少ない人数です。この人数でのごみ減量活動は、とても手がまわらないと思っていますが、各地区で委員さんが活動してくれていることは、とても心強いことです。任期は２年ということで、目標を立てて活動をしています。

委員さんにはごみの分別の徹底、再利用やごみの減量化、資源化の実践についての活動をお願いしています。また、地球環境にやさしい活動ということで、マイバックやマイボトル、マイ箸の実践、５Ｒの普及もお願いしています。以上が現在の活動になります。そして、いろいろな活動の中で、皆でＰＲを行っています。環境フェアや、緑化まつり、ごみゼロキャンペーンを実施していますが、地域の人との関わりがとても良くできています。

私たちの組織の前身であるごみ減量化婦人の会は、昭和63年7月に市の施策のもとに発足しました。そのときにごみを減らすにはどうしたらいいかということで、16項目の提言を出させていただきました。その中で牛乳パックの資源化が平成３年に実践されました。

その他、天ぷら油の資源化、平塚ロールの推進、平成11年からペットボトルの資源化に取り組んでいます。

プラクルの分別方法もご承知だと思いますが、平塚の場合はプラと書いてあるものだけを、プラクルとして資源化しています。排出されるごみの中には他の物も混ざっていますが、これはリサイクルプラザで分別をしています。まだまだ市民の皆さんに周知できていないので、やはりＰＲが一番必要かと思います。これからさらに資源化できる量が増えるように、委員一同、頑張ってまいりたいと思っています。

ＣＯ２の削減については、やはりごみを出さないということが前提だと思います。分別を徹底することによってごみが減ります。それによってＣＯ２の削減もできると思いますので、これからも各地区の委員さんにお願いして、ごみの分別の徹底に取り組んでいく次第です。

【参加者】

３Ｒは、リユース・リデュース・リサイクルで皆さんも知っていると思いますが、私たちもその他の２Ｒが、なかなかわからないので、その説明をお願いします。

【参加者】

５Ｒの1つ目がリデュースです。ごみを出さない、食べ物は食べきれる分だけ買って食べ残さない、生ごみはコンポスター等を使いしっかり水切りをして堆肥化するなどの取組です。

次がリユースです。繰り返し使用することを大切にし、むやみに捨てない取組です。洗剤などは詰め替え用商品を買う、繰り返し使える水筒を使う、壊れたものはすぐ捨てずに、できるものは修理をします。

次にリサイクルです。ごみと資源をしっかり分別する。名刺以上の紙は資源へ出す。リサイクル商品を利用するなどの取組で、ここまでが３Ｒですね。

次に、もらわないという選択をすることがリフューズです。ごみになるものはもらわない。買い物の際はマイバックを持参する。マイ箸を持ち歩くなどの取組になります。

最後に、再生資源を使うというリニューアブルです。環境負荷の低いバイオマスプラスチックが使用されている商品を使うなどの取組のことです。

【参加者】

次に、令和６年度の平塚市ごみ減量化推進委員会の事業をご報告します。４月に緑化まつり、５月にまちぐるみ大清掃、７月に環境フェアに参加しました。また、９月に市内のごみ処理施設見学会を４班に分かれて行いました。今後は11月にくるりんまつりとまちぐるみ大清掃、２月、３月には各地区で公民館まつりがあります。その際に、先ほど説明のありましたリサイクル品を使うということで、リサイクル商品のトイレットペーパーやティッシュペーパー等の販売を通して、皆様にリサイクル品を周知する活動を行います。

【参加者】

今日のテーマであるデコ活を私たちもあまり聞いたことがなくて恥ずかしいのですが、脱炭素について、市の方から市民の方にもっとＰＲをお願いしたいと思っています。広報ひらつかを見ない方もいらっしゃいますので、各団体にもさらにＰＲするように市の方から要請をしていただく必要があります。

【司　会】

詳細なご報告ありがとうございました。長年の活動からいろいろな取組を紹介していただきました。本当に頭が下がる思いです。

ご意見を整理させていただくと、やはり市民の毎日の生活の中で、ごみをどういうふうに削減していくか、あるいは先ほどお話があったようにリユース、リサイクルなどの５Ｒをどのように進めていくかというところが、日々の暮らしの中で一人一人、私たちができることではないかと感じました。

もう一つは、ひらつか環境ファンクラブの活動ですけれども、日々の活動の一環として、子どもたちへの学習活動というところを積極的になされていることは、これからの持続可能な社会を目指すためには非常に必要な取組だと思いました。

ここで皆様からいただいた活動について、市長から一言ご感想をいただければと思います。

【市　長】

それぞれの活動をご紹介いただきましてありがとうございました。先ほど発表いただきました活動に、日頃から大変ご尽力をいただいていることに対して改めてお礼を申し上げたいと思います。

企業の皆様には、大きなエリアの中で産業の側面から脱炭素、環境配慮を進めていただき、本当にありがたいことだと思っています。それから、地区美化推進委員の皆様から、ごみの分別のお話がありました。平塚市は昔から資源ごみを回収して買い上げ、自治会に資金として交付しています。全国でも最初に取り組んだ自治体ですので、そういう意味においては、昔からごみに対する意識の高さがありました。美化推進に対して、身近なところから意識を持って取り組んでいただいていることに、改めてお礼を申し上げたいと思います。

ひらつか環境ファンクラブの皆様には、子どもに意識づけをして、環境の大切さをしっかりと教えていただいています。長い間続いているということは、皆様の地道なご苦労が次につながっているのだと思います。専門的に取り組んでいただいていることに、改めてお礼を申し上げたいと思っています。

また、ごみ減量化推進委員会の皆様には、様々な活動をしていただき、本当にありがとうございます。昔はごみ減量化婦人の会という名称でしたが、長い間、ごみ減量化やリサイクルなど、環境配慮の活動に取り組まれてきたことに、改めてお礼を申し上げます。

先ほど司会からご指摘いただきましたが、こういう皆様の活動が環境対策につながっていくと思いますので、我々としては、皆様の活動をしっかりと応援できるような体制づくりをしていきたいと思います。

【司　会】

皆様がどのような活動をされているか知っていただいたと思います。ここからですが、脱炭素型ライフスタイルを広めるためには、というテーマで意見交換をしていきたいと思います。テーマ設定が難しいのですが、例えば日々の活動の中でお困り事があれば、それをどう解決していくかということにもなると思いますし、広報していくためにはどんなことが足りていないかとか、そういったことにもなると思います。私から指名して、ご意見を伺うという形でお願いします。

【参加者】

先ほど、資源ごみについての発言がありました。ごみはお金になりませんが、資源はお金になります。審議会の中で、資源ごみという名称を変えてほしいということを申し上げました。近年は、資源再生物と書いてあることが多いので、これから改めていただきたいと思います。市役所の職員で、資源ごみと言っている方もいらっしゃると思いますが、資源ごみではなく資源再生物です。よろしくお願いします。

【司　会】

大変貴重なご意見ありがとうございます。ごみではなく資源ということですね。

【参加者】

市民の方がごみステーションに排出されているごみを見ると、正しく分別されていません。それを１人で注意することは難しいので、改善したいと思っています。ペットボトルのキャップを外していないですし、ラベルも取っていない、中身もそのままで出されています。私に勇気があればいいのですが、トラブルになってしまうと困ります。日頃から私のことを知らない人だと、声をかけてもトラブルになりかねないので、もっと分別を徹底できるように方法を考えたいと思っています。

【司　会】

今は何か一言声をかけることによってトラブルが起きやすい社会ですので、やはり自治会の方がごみの分別作業をするときには、ユニフォームを羽織るなど、役員だとわかる形でないと、なかなか話し掛けられないという意見はよく上がっています。

【参加者】

私は、ごみ減量化推進委員です。緑化まつりで、ごみ分別ゲーム等をしています。子どもより、若い保護者の方が分別のことを知りません。小学生のお子さんだと４年生のときに学校で習うので、お兄ちゃんお姉ちゃんたちが妹や弟に教えてあげたりするのですが、とにかく皆さんに知られていないということを感じます。他の地域から引っ越してこられた方は、地域によって分別方法が違っていることを知らなかったり、前の地域での分別の方法をそのまま行っている方もいたり、全くそういうことに興味がなくてご存知ない方もたくさんいるので、とにかく周知する必要があると思います。私は崇善地区の明石町に住んでいますが、夏祭りのときに、ごみ減量化推進委員として何ができるかということを考えました。夏祭りで提供されたものをごみとして出すときに、例えばプラの容器をそのまま捨てると可燃ごみになってしまうので、バケツを用意して、すすいで水切りすると資源再生になるということを実践してもらうようにしました。何年か続けていると、毎年来る人たちは率先してやってくださいます。お子さんに伝えると、大人や他のお友達に教えてあげているので、やはりごみの分別を遊びのような感じで、身をもって体験できるような機会が増えるとよいことを実感しています。小さなことですが、やはり積み重ねだと感じます。

【参加者】

旭南地区で活動していますが、環境問題やごみ問題は、小さい頃から身につけないと、大人になってからでは、なかなか実践できないと思っています。

環境キャラクターの「クルクル」の塗り絵や環境クイズなどを通して、ごみ分別の啓発活動をしています。今から環境のことを考えて分別していただきたいと思っています。おかげさまで、毎年、イベントの参加依頼も来ますので、やはり長くやっていくことは、価値があると思っています。

【司　会】

分別の問題やたくさんの取組をご紹介いただきました。ちょうど分別の話が出ましたので、美化推進委員の方から、それに関して、何かご意見や課題など、感じていることがありましたらお話をいただけますでしょうか。

【参加者】

各自治会の状況をお話しさせていただければと思います。先ほどお話がありましたけれども、分別されずにごみを出してしまう方が非常に多く、そこで一声かけることは、なかなか難しいというのが現状だと思います。声をかけても置いていってしまう人もいるし、中には役員がやってくれるからと言ってそのまま出す人もいます。結局そういうことが嫌で、役員をやりたくないとなってしまうので、それぞれ取り組むということが大事だと本当に感じています。

自治会では、組長にごみステーションに立っていただいているのですが、人がいない夜に、自治会以外の方が出してしまうのが現状です。人としてのモラルが問われてしまっているところが、悲しい社会だと感じます。せめて自治会内ではごみの分別が徹底できるようにしたいと思いますが、中にはいろいろな事情で分別すること自体がなかなか難しい家庭もあると思います。できることに取り組むことが大事だと思っています。

【参加者】

おそらくどこの自治会もそこが一番の悩みの種というのが現実だと思います。私も自宅から30メートルぐらいの所に資源再生物の置き場があるのですが、明らかに可燃ごみと分かるものは回収されずに残っているので、家へ持ち帰って、自分の可燃ごみと一緒に出しています。そのまま何もしなければ間違いなく置きっぱなしなので、こんなこともやらざるを得ない状況です。

資源再生物の集積所は、当然のことながら、周りの方の了解がないと設置することはできません。やはり自分の家の近くに設置してほしくないという思いから、集積所を増やしたくても、了解がなかなか得られないというのが現実です。

可燃ごみの戸別収集化が進んでいますが、社会実験のときにごみの量が

減ったということをお聞きしています。ごみ袋の有料化やプラとペットボトルの戸別収集によって、減量化が図られるという感覚はありますので、長期的に考えて、実施していただいても私は構わないと思っています。

【司　会】

戸別収集によるごみの減量、ごみの有料化、プラとペットボトルの戸別収集について、市長にお聞きしたいと思います。

【市　長】

ご存知のように戸別収集を社会実験として令和元年10月から始めました。そして、令和３年４月から夕陽ケ丘の一部、立野町の一部、大神の一部で開始し、令和９年度には全地域で実施する予定です。戸別収集を実施した地域は、自分の家の前に出したごみが見えるので、減量化は着実に進んでいると報告を受けています。特に高齢者の団体の皆様からは、うちの地域も早く戸別収集にしてほしいと言われます。令和９年度をめどに全地域で戸別収集を実施することで、ごみの減量が進むと考えています。

戸別収集をすると外部委託などもあって費用がかかりますので、令和９年度に全地域が戸別収集になった時点で一部有料化の検討を始めようかという状況です。

ご指摘いただきましたように、市民の皆様のごみ減量に対する意識づけという面においては、ごみ袋の有料化は有効だと思います。ごみは市民の皆様の税金を使って焼却しています。発電や売電によってお金を生み出す仕組みもありますが、それだけではなく、市民の皆様が自らごみを分けて減量化を進めていく上で、有料化は必要だと思っています。容器包装プラスチックの戸別収集についても、検討させていただきたいと思いますが、ひとまず可燃ごみの戸別収集をしっかりと行い、その先に、どういう形でもっと減量化を進めていくか、対策を考えていきたいと思っています。

【司　会】

平塚地区の環境対策協議会では、企業の皆様が集まった協議会の取組の中から、日頃感じている課題ですとか、脱炭素型のライフスタイルを広めるためどのようなご協議をされているのか、もう少し深くお話を伺いたいと思います。

【参加者】

今のお話の中で、少し思ったことがあります。カーボンニュートラルが背景にあるのですが、各企業でも中長期的な計画を持って節電活動に取り組んでいます。様々な取り組み方があると思いますが、私の会社でもアイデア勝負というところがあります。見える化をすることが非常に重要なポイントで、見える化をすることで、電力の削減によるＣＯ２の削減量が換算できます。それによってコスト削減につながり、先ほど話の中であった費用に充てることもできるのではないかと感じます。会社でも当然効果を出すための取組を行っていますので、考え方に通じるところがあると思いました。

【参加者〛

企業の立場からしますと、プラスチックや鉄のことを有価物と言っています。要は価値があるものとして引き取っていただきます。一方、本当にごみになるものはお金をかけて処理していますので、できるだけお金をかけないようにということで、有価物に回すような取組はしています。一例を挙げると、事務用の椅子も分ければ鉄と銅の有価物になりますので、できるだけごみと言われるものは減らす努力をしているところです。

【司　会】

企業の取組もすごく重要ですね。経済の安定というところを考えると、やはりお金の問題になります。先ほどお話があったように、見える化は大変重要です。例えば、小さなお子さんに指導するということで、若いママたちが学ぶことがありますが、学ぶ一つのきっかけとしては数値による見える化です。それが今の方々にはすごく響くのではないかと思っています。そういう企業の取組も、市の方でしっかりと広報していただけるとよいと感じています。

【参加者】

プラスチックの話が出ていましたが、プラスチックは脱炭素に関係があります。先日、私たちの地域で地区レクがありましたが、お昼にお弁当とペットボトル飲料が出ます。地域の会議では必ず出されていて、仕方なく受け取っています。しかし、鎌倉市の場合は、市が関わる行事ではプラスチックをゼロにしています。プラスチックをゼロにすれば、ごみの削減にもなり、市民への啓発にもなると思います。ケニアではプラスチック袋を持っているだけで罰金を取られ、刑務所に入ることがあります。ヨーロッパでは使い捨てプラスチックがゼロになっています。私たちの暮らしが当たり前と思わずに、先進的な取組をしている地域や国があることを知り、そういうところから学んでいくことが大事だと思っています。

【司　会】

他市の事例を紹介していただき、ありがとうございます。認識を新たにさせていただきました。そろそろ時間になりましたので、市長に感想をいただきたいと思います。

**７　市長による感想**

ご自身の体験や団体の取組についてお話をいただき、誠にありがとうございました。皆様の活動が合わさって、国民運動や市民運動につながっていることを改めて感じました。これからも環境への配慮について、皆様にお力添えをお願い申し上げたいと思います。

今日のテーマは、デコ活という「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動」についてでした。温暖化により地球環境や気候変動への影響がますます危惧される時代になっており、2050年のカーボンニュートラルの実現に向けて平塚市がしっかりと取り組む意思表明として、デコ活宣言をいたしました。

国は、具体的な例として３分野13種類のデコ活アクションを掲げており、平塚市ではＺＥＨ（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）という、エネルギー収支ゼロを目指した住宅に対して補助をしています。また、省エネ、ＬＥＤ化、食品ロス削減に向けた取組、オフィステレワークの導入、太陽光発電やＥＶへの補助など、これから地球規模で考えなくてはいけない取組に対して、補助金を出しています。併せて、クールビズやウォームビズの取組、ごみの減量と分別再利用、地産地消、公共交通や自転車・徒歩での移動などの取組を通して、市民の皆様の活動を応援しながら脱炭素を進めています。デコ活関連の事業については、皆様にお知らせをしながら、ともに取り組むことをしっかりと示していくことが必要だと思っています。

人口減少社会に入っている中で、平塚市は子育てや高齢福祉など、様々な取組を行っており、９年連続で転入超過になっています。若い人たちが転入している状況なので、若い人たちにごみの分別も含めて、より一層環境の大切さや地球規模の環境配慮についての認識を持っていただけるよう、しっかりと取組を進めていきたいと思っています。また、2030年度には温室効果ガス排出量を2013年度比で46％削減、2050年にはカーボンニュートラルの実現という大きな目標があります。平塚市の場合は、先ほどお話がありましたが、企業の皆様にも本当によく取り組んでいただいています。企業の皆様のご協力なしには、平塚市全体での二酸化炭素の削減には結びつきませんので、厳しい目標ですが、今後も企業の皆様のお力添えをお願い申し上げます。

新しい取組としては、ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）とＧＸ（グリーントランスフォーメーション）の二つを進めるため、既存の「平塚市みどり基金」の目的・使途を拡大して「平塚市環境みどり基金」を昨年の12月に施行しました。皆様の環境に関する様々な取組に活用していただきながら、温室効果ガスの削減目標に向かってしっかりと進めていきたいと思います。

皆様の活動に改めてお礼を申し上げるとともに、今後とも、平塚市の環境配慮に対してご尽力いただきますようお願い申し上げ、ご挨拶に代えさせていただきます。今日はありがとうございました。